

16年間お疲れ様！ 雨の日も雪の日も回った風車

八幡牧野に設置されていた町所有の風車2基がその役目を終え、10月7日から解体が始まりました。

この風車は、最大出力が1基あたり500kwhで、16年間延3807万kwhを発電し、栽培漁業総合センターへ電力を供給するとともに、その7割弱にあたる2593万kwhを余剰分として北海道電力に売電し、売電収入は、約3億円にも上りました。

しかし、長年の稼働による老

朽化により故障が頻発し、維持するためには高額な修理費が必要となることから今回解体することになりました。

解体は、地上40mにある3枚の羽根を固定しているボルトを作業員が手作業で取り外し、その後クレーンによって1枚ずつ地上に降ろされました。

そして、全ての解体作業が終わると、町のシンボルの存在でもあった風車が無くなった丘には、寂しさにも似た余韻が漂っていました。



植えるのは命の苗 将来の海と子ども達のために

10月9日、上ノ国町日本海グリーンベルト構想推進協議会（花田英一会長）主催による「豊かな海づくりのための植樹祭」が開催され、町内外から約350名が参加し、約2000本のカシワやミズナラの苗木が植えられました。

この植樹祭は、海の砂漠化と呼ばれる磯焼け現象を解消するために平成18年から行われ、協議会では、子や孫の世代に豊かな海を残すため、50年、100年先を見据えた活動を実施しています。



一度は来てみて！元気に生き、そのためにできること！

9月18日、高齢者の方々に介護を必要としない充実した老後生活を送ってもらうことを目的とした「介護予防まつり」が開催され、115名が参加しました。お祭りと題されるとおり、お店のように遊びながら介護予防についての知識が学べるコーナーが設置され、血管年齢をチェックしながら高血圧などの予防を学ぶコーナーや体を動かす大切さを学ぶ運動コーナーなど、全部で13のコーナーが設置され、参加した方は楽しみながら、元気に過ごす「コツ」を学んでいました。

